

1



かたし 安田 臣

明治44年、邑智郡石見町日貫（現邑南町）生まれ。代表作は島根県庁舎・島根県民会館のほか、大分県庁舎（建築学会賞受賞）など。若い頃から豪傑として知られ、建設省の管理職であるにもかかわらず民間の建築家達と連名で国に対し抗議声明を出すなど、数々の逸話を残す伝説の営繕官僚であった。

菊竹清訓

昭和3年、福岡県久留米市生まれ。独自のデザイン論『代謝建築論 か・かた・かたち』を掲げ、メタボリズムを提唱する。出雲大社庁舎（日本建築学会賞受賞）、島根県立美術館、島根県立図書館、島根県立武道館、田部美術館など島根県に数多くの名建築を残している。

島根県庁舎

昭和34年竣工。
打ち放しコンクリートの柱を生かしたピロティや黄金比を意識した開口部など、シンプルな外観が特徴。「島根の郷土性の表現」や「県内産業の育成」をテーマに、石見焼タイルや大根島石などの県内産資材を積極的に使用している。

設計 | 建設省営繕局 (担当: 安田臣)

旧県立博物館（県庁第3分庁舎）

昭和33年竣工。「自然採光・自然換気の博物館」がコンセプト。当時多かった水害から展示物を守るため、「高床式倉庫」のような建築を提案し、守られた空間『くら』と、人々が交流する開放的空間『ざしき』を上下に組み合わせた構成になっている。

設計 | 菊竹清訓建築設計事務所

2



撮影: 岡田泰治

3



撮影: SATOH-PHOTO

4



5



6



7



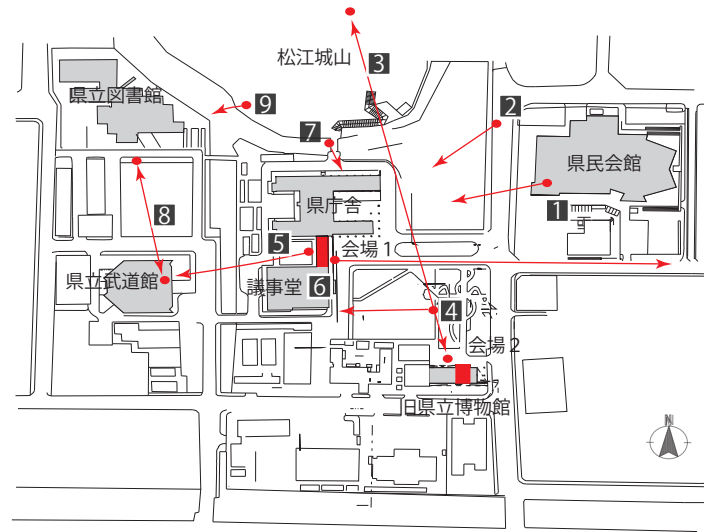
8



9



県庁周辺 眺望マップ



- | | | |
|---|-------------------|---------------|
| 1 | 都市風景としての建築 | (県民会館3F ホワイエ) |
| 2 | 逆さ県庁 | (大手前) |
| 3 | 対峙する新旧の城 | (天守閣と博物館回廊) |
| 4 | 議事堂のシンメトリー | (菊竹による若槻礼次郎碑) |
| 5 | 重森完途の庭の借景としての武道館 | (県民室) |
| 6 | 都市軸の前景としての重森完途の庭 | (県民室) |
| 7 | 寛永年間よりみたる 新しい時代の壁 | (千鳥橋) |
| 8 | 響き合う大屋根 | (図書館ロビー・回廊) |
| 9 | 見え隠れする図書館 | (城山公園・椿谷) |

主催 | 島根県
 展示監修 | 千代章一郎
 展示制作協力 | 島根大学 千代章一郎研究室
 荻晋彦 小嶋優実 伊久夢乃 畑野淳志 古澤太晟 水田日和 吉田孝生

島根県庁舎・旧県立博物館
 国有形文化財登録記念展

新しい時代の都市空間を 切り開いた建築と人びと

歴史文化都市松江の国有形文化財建造物として、戦後の近代建築群が加わりました。新しい時代の都市空間を開いたその建築群を実際に体験しながら、建築模型や図面・写真の展示をご覧ください。島根県知事田部長右衛門、建築家の安田臣や菊竹清訓、島根県職員たち、建設現場の職人たち、第二次戦後の新しい時代の建築をつくった人びとのことと作品を遺し伝える展覧会です。

会期 : 令和元年 12月18日(水) ~ 令和2年 1月17日(金)
 会場1 : 島根県庁舎玄関ホール及び県民室
 開館時間 : 8:30 ~ 17:15
 (休館日 : 土日祝日、年末年始(12月28日 ~ 1月5日))
 会場2 : 県庁第三分庁舎(旧県立博物館) エントランス
 開館時間 : 9:00 ~ 17:00
 (休館日 : 年末年始(12月28日 ~ 1月5日))

展覧会マップ

会場1：島根県庁舎

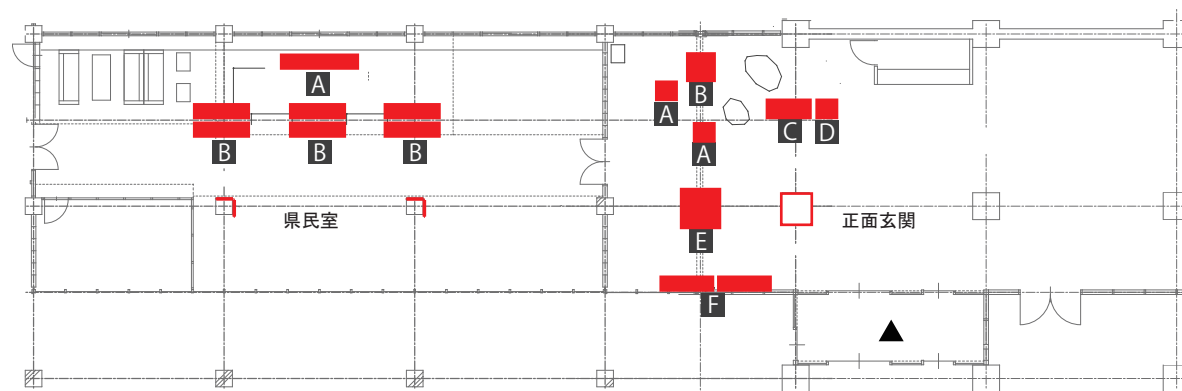


セクション 1 新しい時代の県庁舎

セクション 2 都市のなかの県庁舎

展覧会マップ（詳細）

会場1：島根県庁（詳細）



セクション 2 都市の中の県庁舎

A 議長室飾り棚と都市風景写真

B 建設写真

セクション 1 新しい時代の県庁舎

A 県庁舎図面・写真

B 県庁設計図面

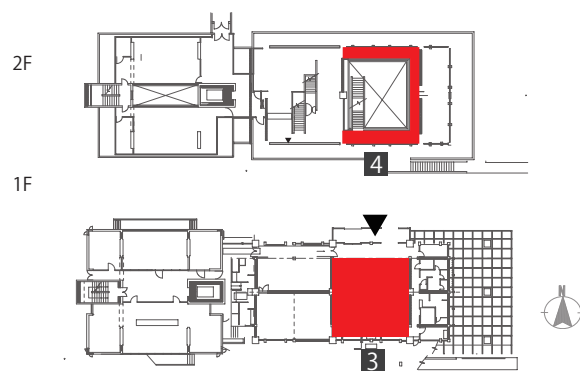
C 展示ケース

D 展覧会パンフ

E 県庁舎模型

F 他県庁舎模型写真

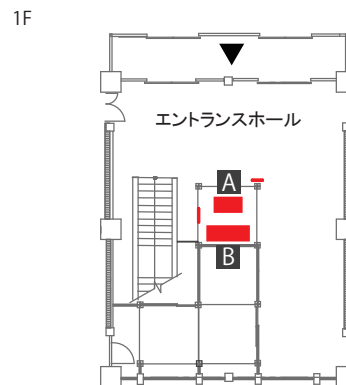
会場2：旧県立博物館（県庁第3分庁舎）



セクション 3 歴史と対峙する博物館

セクション 4 都市のなかの博物館

会場2：旧県立博物館（県庁第3分庁舎）（詳細）

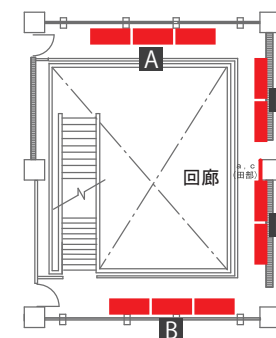


セクション 3 歴史と対峙する博物館

A 模型

B 図面・プレゼンブック

2F



セクション 4 歴史と対峙する博物館

A 都市的風景写真

B 建設工事写真